

平成26年度全国病院事業管理者研修会

平成26年5月23日 砂防会館別館1階「木曽」

テーマ「チャレンジ精神に学ぶ～志・気概・権限・改革・挑戦～」

シームレスな連携チャレンジ

地域完結型医療をめざす

三浦市立病院

総病院長 小澤幸弘

本日のメニュー

- 1、プロフィール
- 2、三浦市立病院の医療崩壊
- 3、神奈川県の実地医療コントロール体制
- 4、医療：地域完結型診療体制の確立
- 5、保健：地域における予防医療基盤の構築
- 6、福祉：地域包括ケア体制の確立
- 7、地域で医師を育てる

1、プロフィール



プロフィール

- 昭和56年 新潟大学医学部卒業
横浜市立大学医学部初期研修
- 昭和58年 横浜市立大学医学部第1外科入局(外科)
横浜南共済病院、癌研究会付属病院、平塚共済病院、
社保相模野病院、平塚共済病院、
神奈川県立がんセンター(食道がん)
- 平成 3年 横浜市立大学第1外科助手
- 平成 6年 横浜市立大学救命救急センター講師(救急医学)
- 平成 8年 三浦市立病院 外科医長
- 平成10年 診療部長
- 平成15年 副院長
- 平成19年 病院長
- 平成22年 総病院長(病院長兼病院事業管理者)

三浦市立病院の沿革



三浦市立病院の沿革

- 昭和27年 「三崎町国保直営病院」開院
- 昭和30年 「三浦市国保直営病院」改称
- 昭和42年 「三浦市立病院」改称
地方公営企業法一部適用
- 昭和50年 三浦市救急医療体制「三浦方式」発足
- 昭和54年 病院事業経営健全化計画開始
- 昭和57年 三浦半島広域病院群輪番制開始
- 平成 2年 救急24時間365日応需体制開始
- 平成16年 「三浦市立病院」新病院建設

新病院建設

平成16年



2、三浦市立病院の医療崩壊



突然、病院長が転出

平成19年3月

大学教授の命令で

突然、病院長が神奈川県内の公立病院に転出



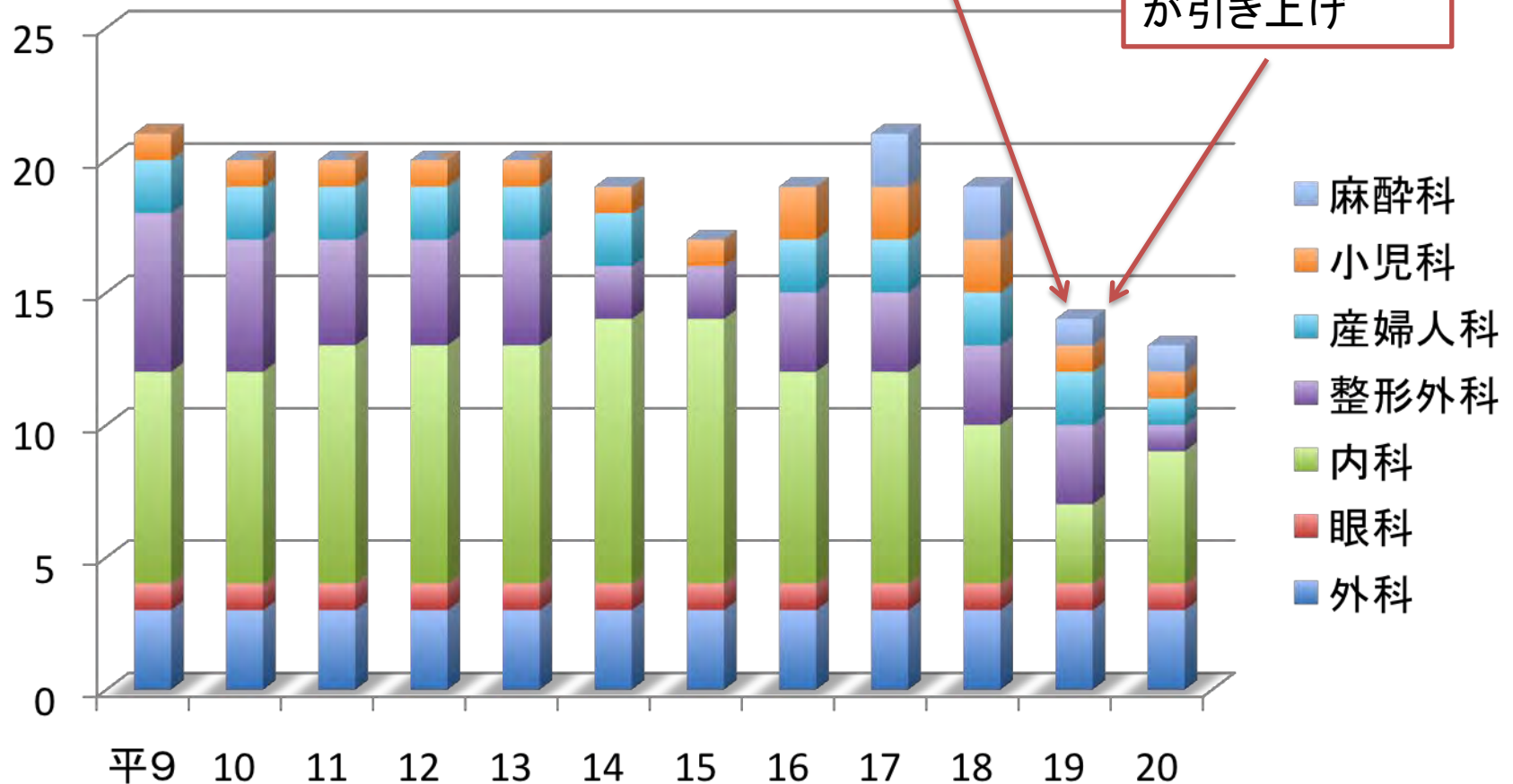
三浦市立病院の医療崩壊が始まる

医療崩壊

大学医局からの医師撤退

小児科の入院中止
時間外救急対応中止
産科の中止

大学医局
内科・整形外科
が引き上げ



平成19年4月

そして

病院長になる

医師確保

大学医局からの医師派遣の見通しが立たない



独自の医師確保の道をとらざるを得ない



三浦にとって必要な医師、地域医療を本当に
やりたい医師をさがす絶好の機会

3、神奈川県メディカルコントロール体制

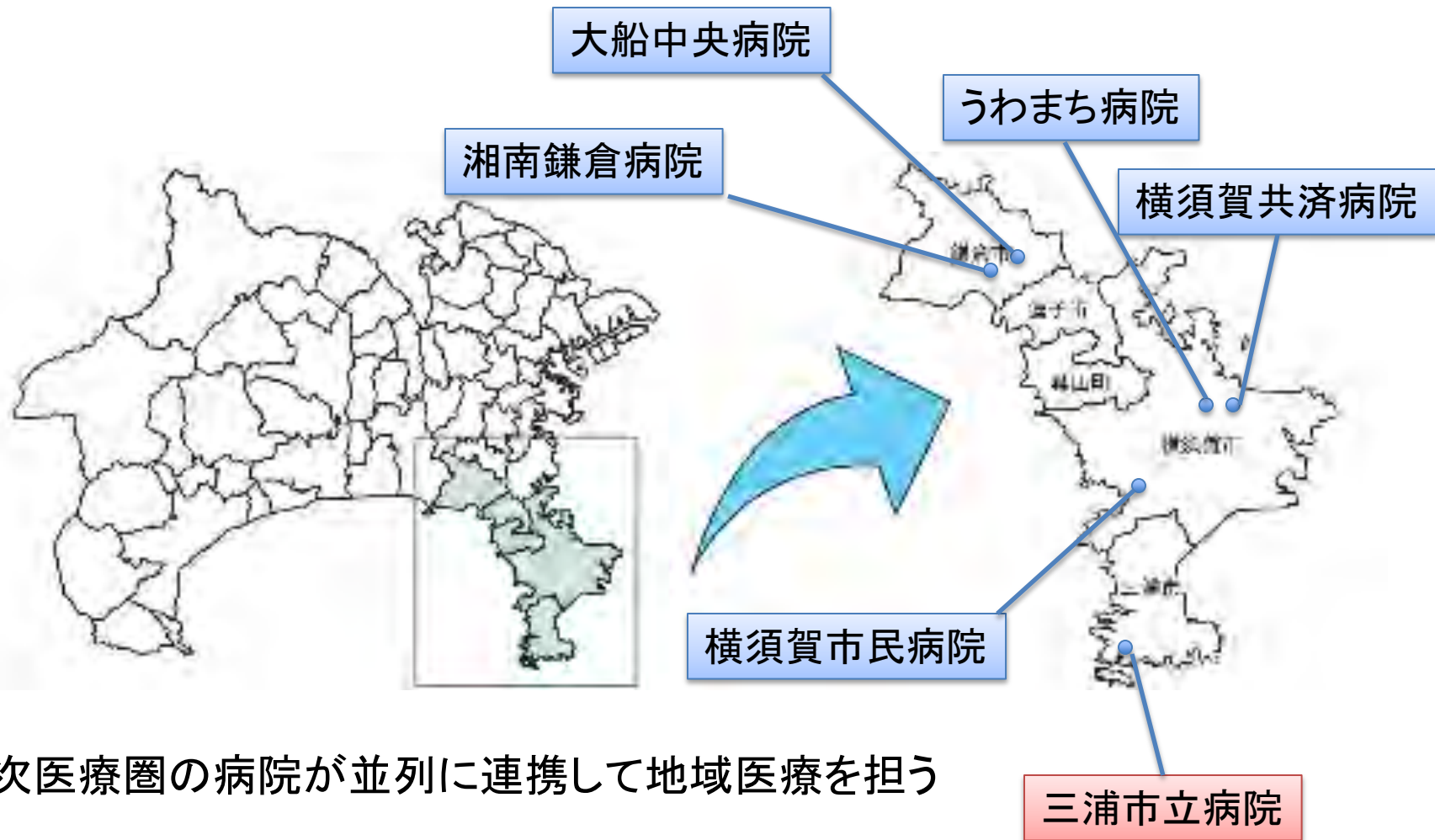


神奈川県メディカルコントロール協議会

大学の救命救急センター
を頂点とする
“トップダウン型”



三浦半島地区メディカルコントロール



「持つべき機能」と「持たざる機能」
を明確にする

「持たざる機能」は
地域連携で確保する

経済性の追求だけでは
三浦市に必要な
病院は維持できない

三浦市に必要な医療を
追求してこそ
病院は維持できる

「三浦ならではの」の地域医療

- 救急24時間365日応需医療体制を堅持し、急性期病院としての質を確保する。
- 行政、診療所と一体化して健康診断を促進し、三浦市民の健康増進をはかる。
- 多くの介護老人施設と密接な連携を構築する。



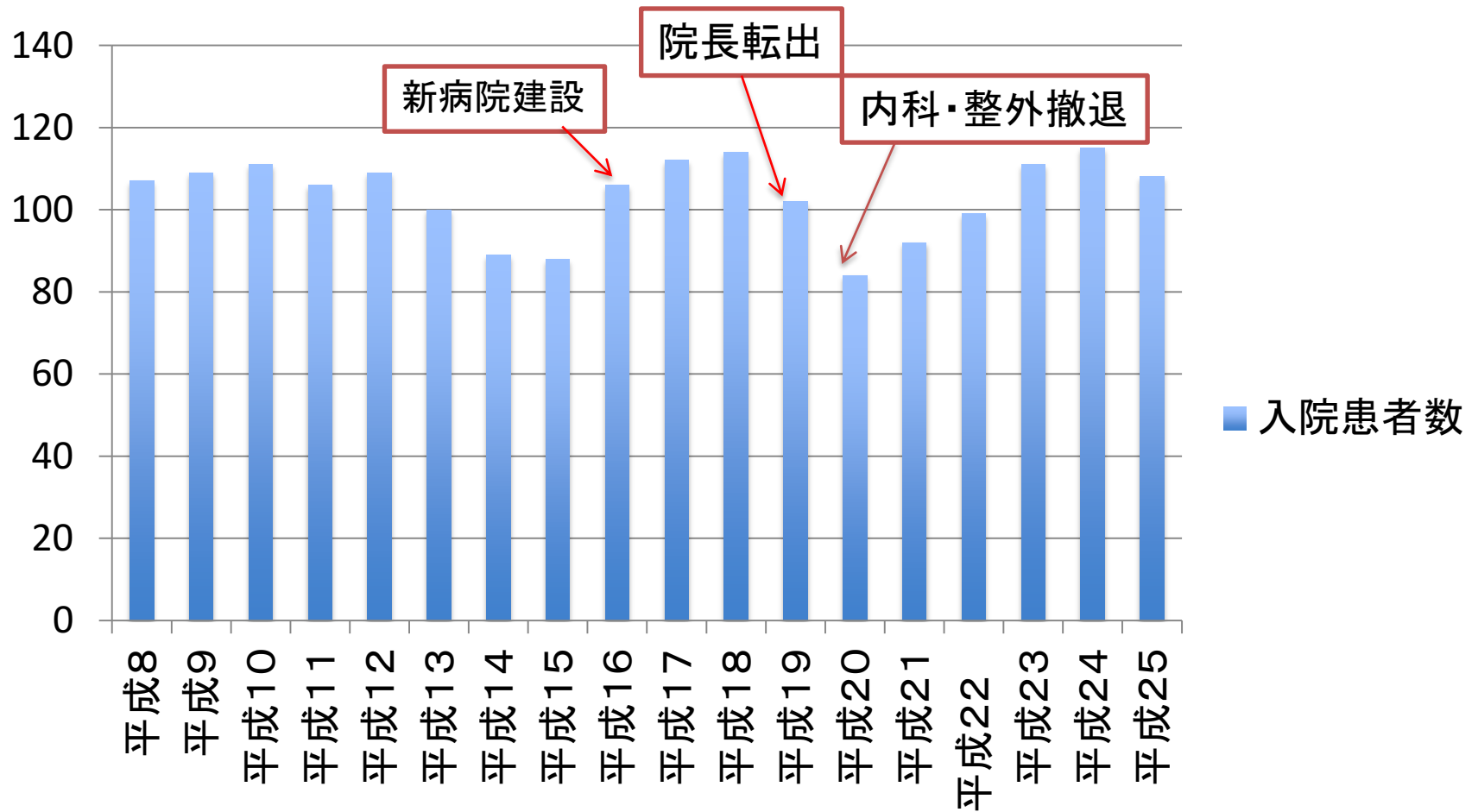
地域での保健、医療、福祉の一体化

特例債受け、改革プラン策定

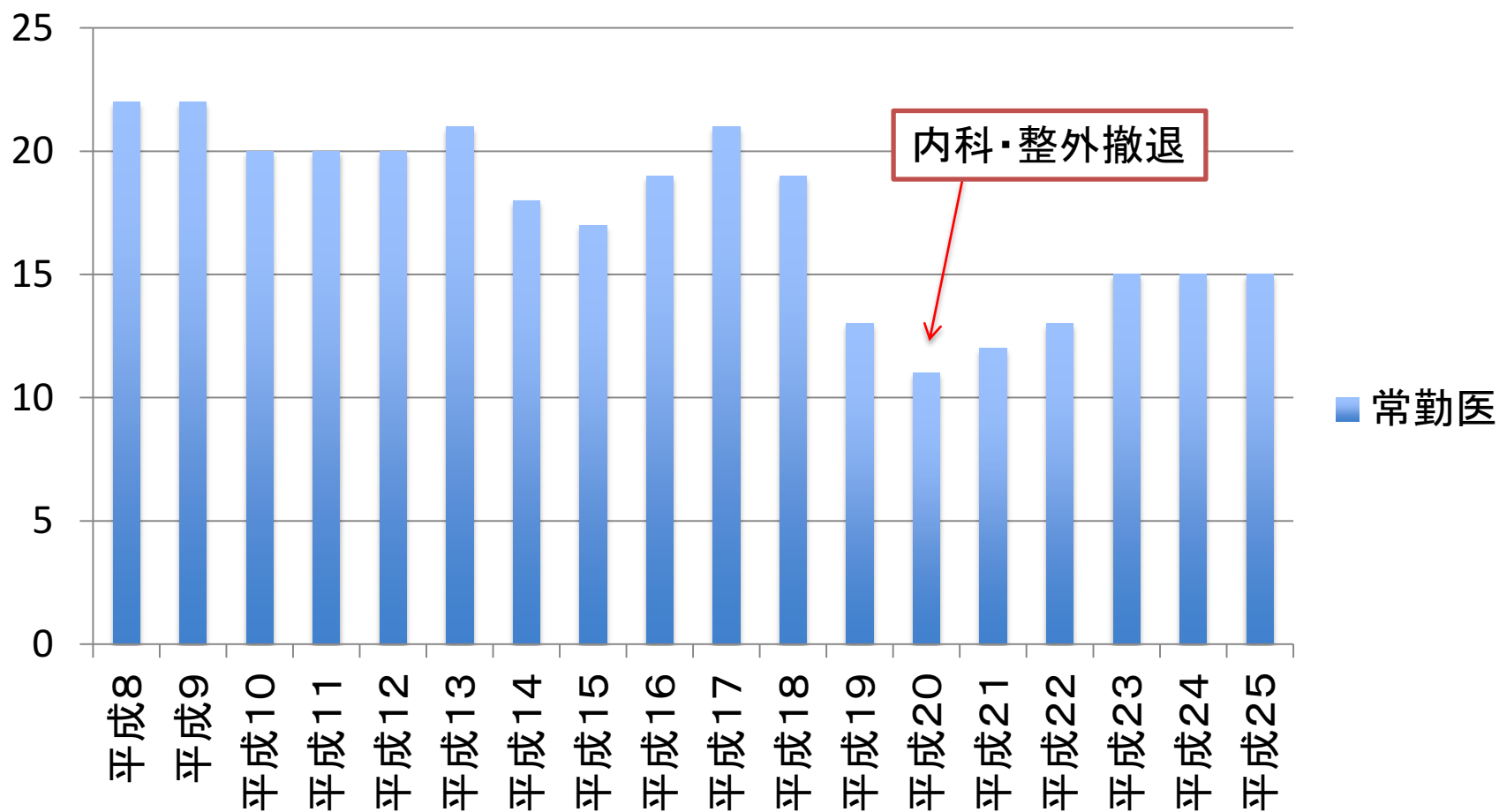
平成20年度



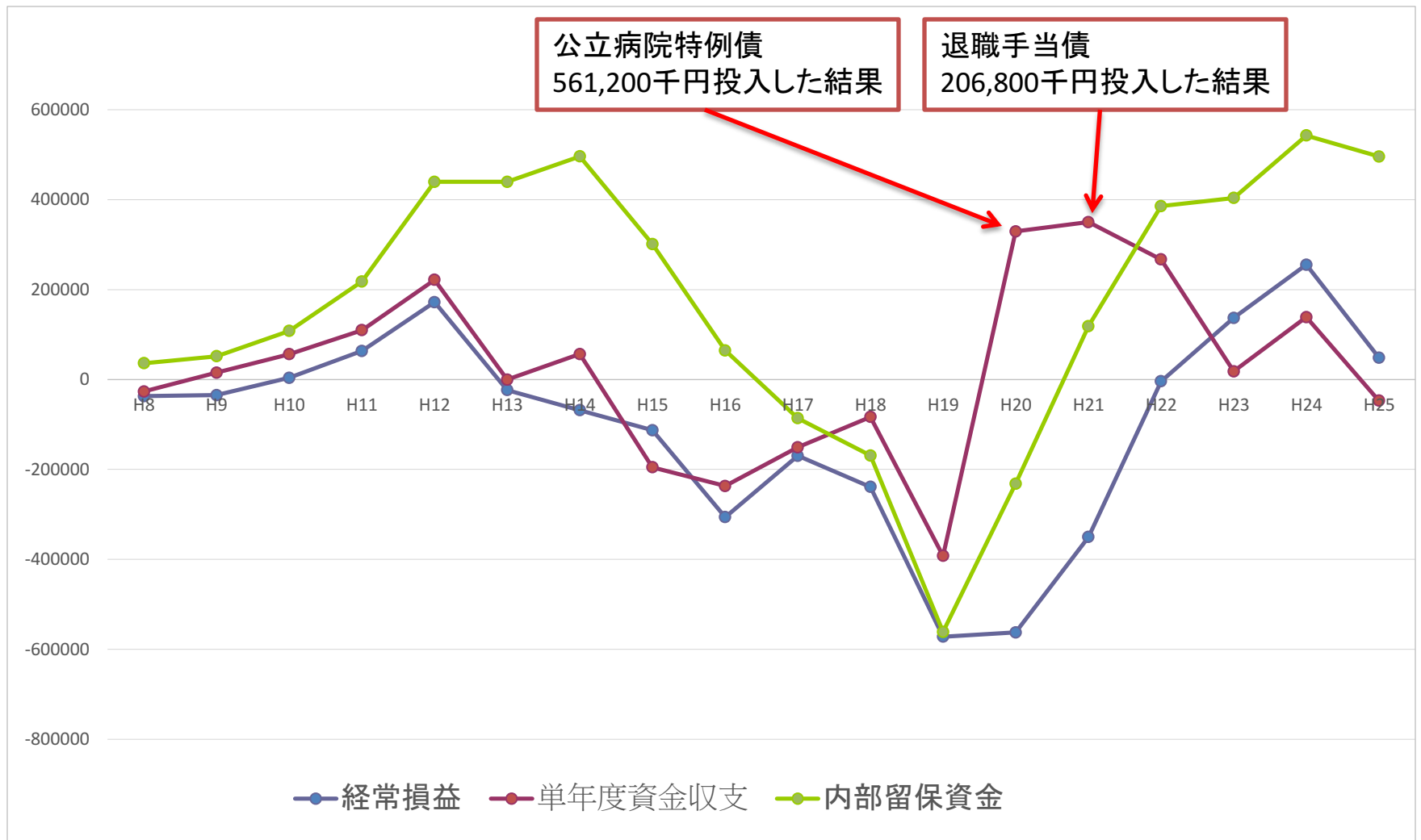
入院患者数



常勤医師数



経営状況の推移



三浦市立病院

診療科 内科・神経内科・外科・整形外科・産婦人科・小児科・眼科・耳鼻咽喉科・
リハビリテーション科・麻酔科・脳神経外科・泌尿器科・皮膚科
病床数 136床(亜急性期20床)
職員数 医師15名・看護師80名・医療技術29名・事務その他11名・計135名



救急告示病院
一般病棟入院基本料 10対1
運動器リハビリテーション(I)
脳血管リハビリテーション(I)
強化型在宅療養支援病院

4、医療：地域完結型診療体制の確立



病院存続のための戦略

平成21年4月

1、経済性の視点から

- トータルSPD
- DPC
- 地方公営企業法全部適用（給与の適正化）

2、医療の質の視点から

- DPC
- アンチエイジングプロジェクト
- トリプルP
- 地域中核病院との診療連携

ドクターヘリによる連携

平成17年より



新病院建設の翌年に
病院前ロータリーに
ヘリポート増設

東海大学救命救急センター

横浜市大市民総合医療センター

5分

15分

三浦市立病院

20km



地域中核病院との連携

平成19年より

横浜市立大学附属病院



神経内科
小児科
耳鼻咽喉科
麻酔科

横須賀市立うわまち病院

循環器内科



横須賀市立市民病院

循環器内科



横須賀共済病院



循環器内科
脳神経外科
耳鼻咽喉科
皮膚科
麻酔科

20km

地域からの診療支援連携

	共済	市民	うわまち	横浜市大	県立循環	その他
循環器	2	2	1			2
呼吸器					1	2
消化器						1
糖尿病						1
神経内科				4		
小児科				2		
脳外科	2					
耳鼻科	2			2		
泌尿器科	2					
皮膚科	2					
麻酔科	2			2		

1コマ半日として、主に午後に専門外来を開設してもらっている。

循環器外来

	月	火	水	木	金
横須賀共済		2			
うわまち			1		
横須賀市民					2
その他				2	

①地域中核病院の窓口として

②急性期治療後の身近な通院の場として

脳神経外来

	月	火	水	木	金
横浜市大 神経内科	1	1		1	1
横須賀共済 脳神経外科			1		1

脳卒中の診断や後遺症のフォローに常勤医も
助かっている

5、保健：地域における予防医療基盤の構築



病院存続のための戦略

平成21年4月

1、経済性の視点から

- トータルSPD
- DPC
- 地方公営企業法全部適用（給与の適正化）

2、医療の質の視点から

- DPC
- アンチエイジングプロジェクト
- トリプルP
- 地域中核病院との診療連携

アンチエイジングプロジェクト

Anti-ageing Project

特定健診にJMS健康管理システム採用



臨床検査室を三浦市の中央ラボ化



行政・病院・診療所の一体化した医療活動



バイキューブによる三浦市の医療のネット化

アンチエイジングプロジェクト

Anti-ageing Project

- 遠隔画像診断の確立
- 個人データ(検査、画像)医療機関での共有
- 個人データ(検査、画像)経時的管理
- 地域の健康増進、公衆衛生への活用



『健康都市三浦』

診療所からの検体検査受託

平成20年9月より

特定健診をきっかけに市内診療所より
検体検査の受託の了解を得た。

そして、一般診療の検体検査も受託した。

画像の遠隔読影

平成23年2月より

慶応大学放射線科による
CT・MRI画像の遠隔読影開始

地域における糖尿病疾病管理

平成24年4月より

- 糖尿病外来に治療効果不良群を集約する
- 一般外来、診療所では治療効果良好群をフォローする
- インスリン計算機を導入し教育入院を当院で自立させる
- 同様に周術期にも導入し、院内でインスリン投与法を統一する

地域における糖尿病疾病管理

三浦市立病院

糖尿病専門外来(非常勤医)

(木)午前



糖尿病教育入院

三浦市立病院

一般外来(常勤医)

()午前

()午前

市内診療所 開業医

()全日

()全日

6、福祉：地域包括ケア体制の確立



「三浦ならではの」の地域医療の確立とは 地域における保健・医療・福祉の一体化である

平成22年1月

- 保健

市内すべての診療所からの血液検査を受託し、
市民の健康データを一元管理をめざす

- 医療

断らない救急医療をめざす
常勤医はジェネラリストとしてのスキルを磨く
地域で死ねる場所たりうる

- 福祉

地域医療科を新設し、在宅医療を取り込む

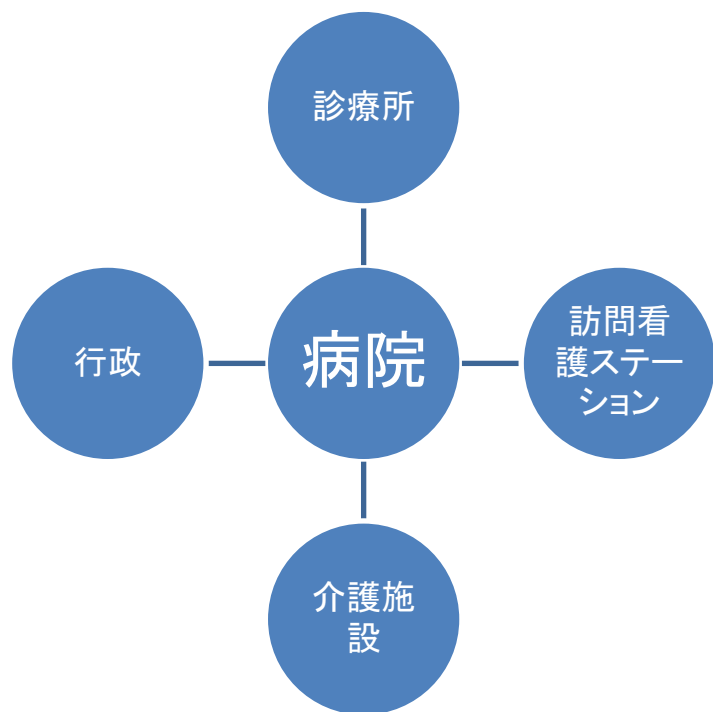
地域における医療連携のかたち

都 市 型

地 方 型

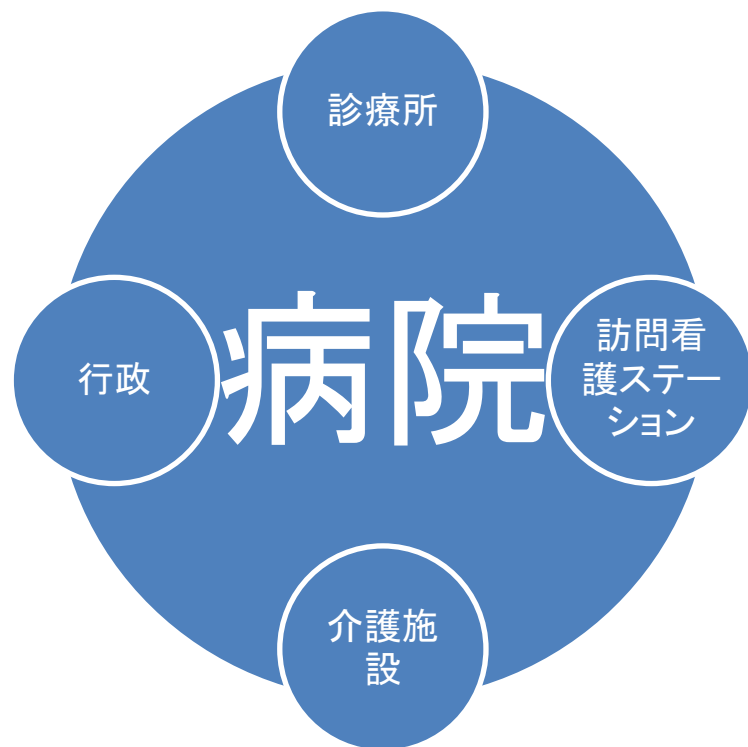
地 域 密 着 型

都市型



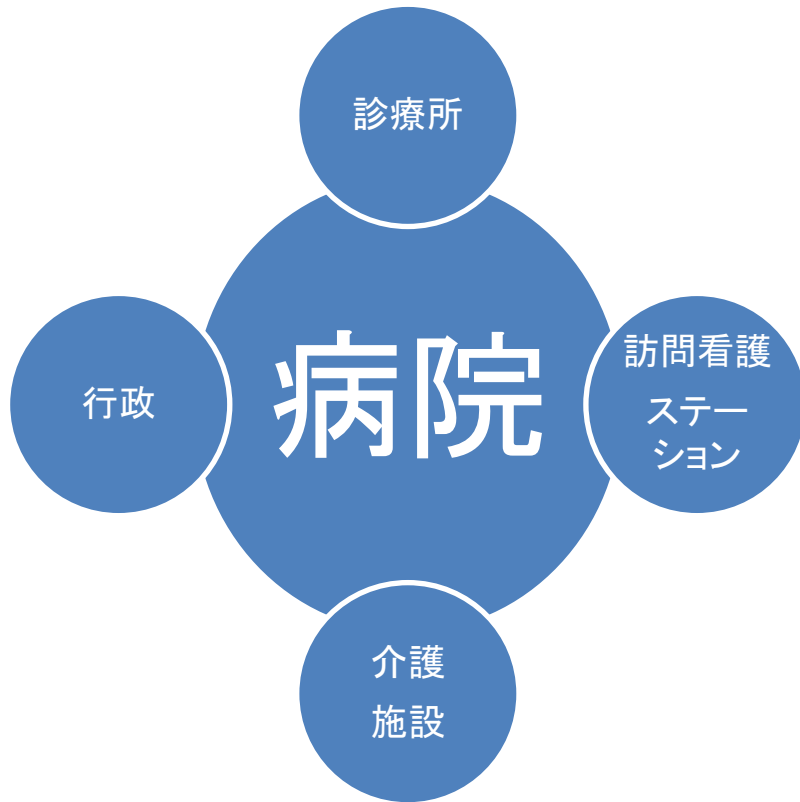
- 病院、診療所、訪問看護ステーション、介護施設、行政が独立して役割を果たしている。
- 各々の連携で成り立っている。

地 方 型



- 地方では、訪問看護ステーションや介護施設が独立して経営を成り立たせるのは難しく、診療所も少ない。
- 行政の管轄下に病院を中心としたケアミックス施設を作って対応せざるを得ない。

地域密着型



- 都市部に隣接した地方にあっては、訪問看護ステーションや介護施設は民営により多く存在する。
- しかし、各々の経営基盤、医療基盤は厳しい。
- 病院は、院外へ一歩踏み出すことにより各々の組織と協働して一体となった体制を築く。

「三浦ならではの」の地域医療の確立

保健・医療・福祉を地域で一体化していくことをめざす



- ・ **地域密着型**の連携体制を構築する。
- ・ 病院より一歩外に出ることにより他の機関との協働をすすめ、連携を強化する。
- ・ 院内の体制を強化する。

院外における連携

- 診療所からの検体検査業務委託
- 画像の遠隔読影
- 24時間在宅医療体制（在宅療養支援病院）
- 退院から切れ目のない訪問看護と訪問看護ステーションへの引き継ぎ
- 介護施設での「看取りケア」の可能性と連携の強化

院内の診療体制

一般病床3病棟の診療区分

2階病棟(42床) 外科系急性期

3階病棟(47床) 内科系急性期

4階病棟(47床) 亜急性・慢性期

地域医療科は在宅診療を行っているが、今後4階病棟と協働し退院直後の訪問看護を展開し既存の訪問看護ステーションにつなげる。

地域で急性期から回復期そして在宅へと
切れ目のない療養環境を構築する

課題①リハビリテーションの充実
②介護との機能的な連携

三浦市立病院 地域医療科

社会福祉士2名、事務員1名、看護師2名(1名兼任)、医師3名(兼任)

平成22年
3月まで

「医療相談室」が相談業務や退院支援、地域医療連携業務を担当

平成22年
4月
5月

「地域医療科」に名称変更

訪問診療開始(平成26年2月までに334名の訪問診療)

在宅療養支援病院に登録

平成23年
12月

医療保険での訪問看護実施

(市内4カ所の訪問看護ステーションと24時間連携)

平成24年
4月

強化型在宅療養支援病院に登録

平成25年
2月
5月

医療保険での訪問リハビリ

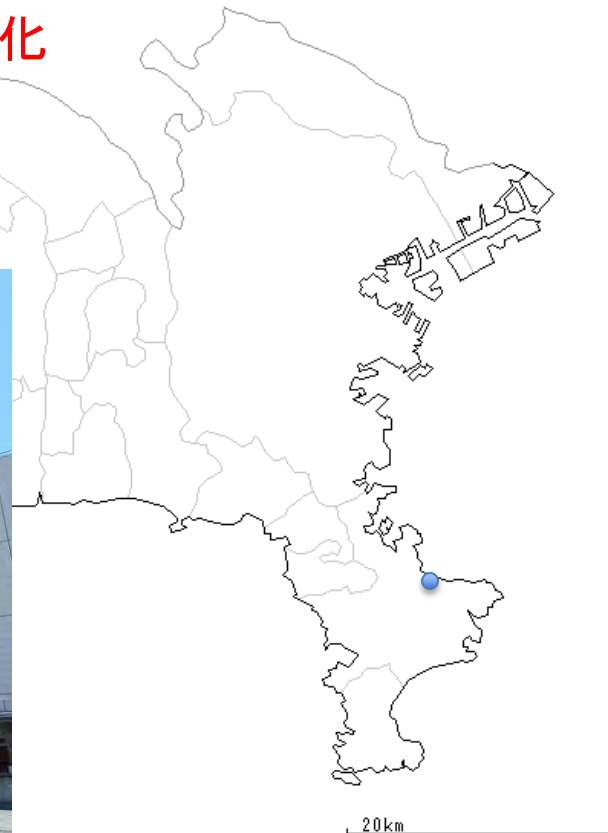
介護保険での訪問リハビリを開始

神奈川県立保健福祉大学

看護学科・栄養学科・社会福祉学科・リハビリテーション学科

「ヒューマンサービスの実現」

- ① **保健・医療・福祉の連携と総合化**
- ② 生涯にわたる継続教育の実現
- ③ 地域社会への貢献



リハビリテーションの拡充

平成24・25年

県立保健福祉大学を中心にOT3名、PT12名体制に



長い間、PT3名体制



院内における体制強化

- 救急体制の進化を止めない
- 2階は三浦市立病院の外科系急性期病床らしく
- 3階は三浦市立病院の内科系急性期病床らしく
- 4階は地域医療科、リハビリテーション科と協働して三浦市の亜急性期病床らしく



すなわち、4階のベットは47床のみにあらず。
退院後の在宅のベットもふくむ。

第62回神奈川県国保診療施設部会

平成24年5月26日



神奈川県5病院6診療所
三浦市立病院主催

シンポジウムテーマ

「高齢化社会における
地域連携の構築に向けて」

「三浦ならではの」の高齢者医療・介護連携 の確立のための調査研究

「三浦ならではの」の
高齢者医療・介護連携
の確立のための調査研究
平成 24 年度
事業報告書



三浦市立病院
平成 25 年 2 月

「三浦ならではの」の
高齢者医療・介護連携の
確立のための調査研究
(在宅医療連携拠点づくり事業)
平成 25 年度
事業報告書



平成 26 年 3 月
三 浦 市



「三浦ならではの」の高齢者医療・介護連携 の確立のための調査研究

平成24年度

「三浦ならではの」の
高齢者医療・介護連携
の確立のための調査研究
平成24年度
事業報告書



三浦市立病院
平成25年2月

- 対象
市内診療所
訪問看護ステーション
特別養護老人ホーム
- テーマ
「地域の医療機関全体で支える
24時間在宅医療体制の構築」
「医療と介護の連携」

高齢者の医療と介護の連携にかかる提言・提案

「できることから取り組む姿勢」

- 退院前カンファレンス（担当者会議）の方法の変更と拡充
- 公開講座の開始

施設各位

三浦市立病院 平成25年度 公開講座のご案内

平成25年度の勉強会を下記の内容・日程で開催いたします。各講座、基礎から実践活用まで3～4回シリーズでの開催を予定しています。
多くの方のご参加をお待ちしております。

☆感染対策講座

- 第1回 5月21日(火) 手洗いと手指消毒
- 第2回 7月16日(火) 疥癬について
- 第3回 9月24日(火) ノロウイルスについて
- 第4回 11月5日(火) インフルエンザについて

☆褥瘡対策講座

- 第1回 6月14日(金) 褥瘡発生の原因・予防について
- 第2回 9月20日(金) 褥瘡処置について
- 第3回 12月10日(火) ポジショニングについて

☆緩和ケア講座

- 第1回 7月8日(月) 緩和ケア～良き死に向けて～
- 第2回 11月8日(金) エンゼルケアについて
- 第3回 2月12日(水) 地域の中の看取り

☆リハビリテーション講座

- 第1回 5～6月頃 移乗動作の介助方法
- 第2回 9～10月頃 転倒予防
- 第3回 1～2月頃 リハビリテーションサマリーのあり方(仮)

※申し込み方法

講座開催日の1か月前に内容等の詳細をメールにてご連絡いたします。
締切りまでに、メールにて申し込みをお願いします。

平成25年度より 公開講座を開始する

対象

(メーリングリスト作成し広報)
訪問看護ステーション
特養、老健、グループホーム等
クリニック、診療所
行政、保健福祉事務所など

テーマ

- ①感染対策講座
- ②褥瘡対策講座
- ③緩和ケア講座
- ④リハビリテーション講座

公開講座 「リハビリテーション講座」

平成25年7月3日



「三浦ならではの」の高齢者医療・介護連携 の確立のための調査研究

平成25年度

- 対象
ケアマネージャー
高齢者向け入居型介護施設
- テーマ
「在宅看取り」
幸せな最期を迎えるために
必要な医療と介護の連携の課題

「三浦ならではの」の
高齢者医療・介護連携の
確立のための調査研究
(在宅医療連携拠点づくり事業)
平成25年度
事業報告書



平成26年3月
三 浦 市



シンポジウム 在宅看取りを考える

平成26年3月15日

在宅看取りを考える



病院で最期を迎えますか？

在宅で最期を迎えますか？

みなさん一緒に考えましょう！！

日 時：平成26年3月15日（土）14:00～16:00

場 所：三浦市民ホール（うらり2F）

主 催：三 浦 市

共 催：三浦市医師会・神奈川県三崎保健福祉事務所

主 管：三浦市立病院

その他：入場無料（お気軽にお越しください！）

《 プ ロ グ ラ ム 》

- | | |
|--|-------------|
| 1 開 会 | 14:00～14:05 |
| 2 主催者あいさつ | 14:05～14:15 |
| 三浦市長 吉 田 英 男
三浦市医師会副会長 矢 島 眞 文 | |
| 3 基調講演 | 14:15～15:00 |
| テーマ：「在宅看取りを考える」
講 師：児 玉 末（こだま こずえ） | |
| 4 休 憩 | 15:00～15:10 |
| 5 パネルディスカッション | 15:10～15:55 |
| テーマ：「在宅看取りと医療・介護連携」
コーディネーター：小澤幸弘（三浦市立病院総病院長）
パネラー：徳山 （三浦市医師会・徳山診療所院長）
青木芳隆（三浦市ケアマネ連絡会会長）
草間理子（せいれい訪問看護ステーション油壺所長）
井上政江（特別養護老人ホームはまゆう施設長）
児玉 末（三浦市立病院内科医師・地域医療科担当医長） | |
| 6 閉 会あいさつ | 15:55～16:00 |
| 神奈川県三崎保健福祉事務所長 ハ ッ 橋 良 三 | |

《基調講演講師プロフィール》

平成22年4月1日 三浦市立病院奉職。同日、市立病院に地域医療科が発足し、以来、担当医長として活躍。内科医師として院内で日常診療をしながら、70名余りの在宅の患者さんを訪問診療し、24時間体制で支えている。市立病院奉職以来、訪問診療患者数は300人を超え、在宅で看取った方々は、70名を超えている。（26.1.1現在）



【本人からひとこと】

三浦の人々のあたたかさ、在宅医療・介護に携わる方々の厚い思いに支えられて、ここまでやってきました。

関係者は顔の見える関係にあり、協力体制も強固で、全国に誇れる連携の輪が、三浦にはあると思っています。

「在宅看取り」の話を通じて、高齢者と、高齢者を支える地域社会、人生の最期をどう迎えるかなどについて、考えていきたいと思います。

シンポジウム 在宅看取りを考える

平成26年3月15日



シンポジウム 在宅看取りを考える

平成26年3月15日



7、地域で医師を育てる



地域医療研修の研修医受け入れ

横浜市立大学



平成19年より受け入れ
1-2ヶ月間
3-5名／年

横須賀共済病院



平成24年より受け入れ
1-3週間
16名／年

20km

地域医療研修

平成19年4月より

地域で医師を育てる体制を構築する第1歩となる。

将来この研修医の中から当院に就職する人材が育つことをめざす。

自治医科大学

平成24年夏より

初めて学生(5年生)の院外実習受入れ

